

課題名 アイデアコンペ

指導教員 片渕 和啓

参加コンペ名 久留米工業大学 2013 ものづくりコンテスト

課題 「ルーム・シェア・ハウス」

主催 久留米工業大学

審査員 池鯉鮒 悟 吉住 孝志 大森 洋子 野々村 善民 土井 紀佳 満岡 誠治
松鶴 悟実 中島 隆

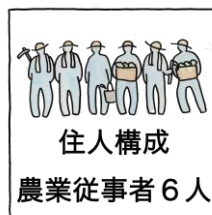
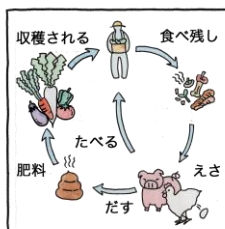
研究の目的

設計製図の授業を通して学んできたが、学校外の他人から評価される機会を設けることによって設計者としてのスキルの向上を目指した。

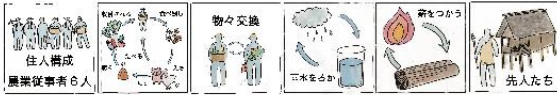
作品名 「MUKASHI LIVING HOUSE 生きるをわけあう」

コンセプト

「わかる」とはどのようなことだろうか。かつて大昔を生きた先人たちは共に働いて水や食物すべてをわけあって生きていた。そんな生き方をわたしたち現代人の暮らしの中に提案したい。そこでほぼ自給自足を行うことで限りなく原始的な家考えた。この家では壁と屋根の躯体が RC でつくられており、農業従事者である住人 6 人が近所で伐採した丸太をつかって自由に空間をつくることのできるスケルトン・インフィル方式である。高床になっているため地面と接することなく風が通り抜けて夏でも涼しい。その下には土間が広がっている。食べ物はみんなで協力して屋根の上の菜園で栽培し、グリーンカーテンの役割も果たす。風通しを良くし夏の暑い日差しを遮ってくれる。野菜栽培の肥料には家畜の尿尿が利用される。また、風呂は薪で焚く。水は雨水をろ過して地下の貯水タンクに貯められ、前面道路に面するダイニングでは住人だけでなく近所の農家のヒトたちも一緒に食事を楽しむことができ、収穫した作物などをわけあう物々交換の場にも利用される。家畜が床下の土間を自由に行き来していて、完全にヒトと家畜の生活が隔てられることはない。このようにしてこの家では生きるというすべての行為は、住人たちが協力しあってわけあわなければ成立しないのだ。



MUKASHI LIVING HOUSE 生きるをわけあう



「わけるとはどのようなことだろうか。かつて大昔を生きた先人たちは共に働いて水や食物すべてを分け合って生きていた。そんな生き方をわたしたち現代人の暮らしの中に提案したい。そこで限りなく原始的な家を考えて。農業従事者である住人6人は近所で間伐した丸木の上で基本的な生活を送る。高床になっているため、地面と接することなく風が通り抜けて涼しい。その下には土間が広がっている。食べ物はみんなで協力して屋根で栽培した野菜や育てた家畜などをたべる。屋根が切り替わる部分は窓ガラスが付いていない代わりにキュウリやヘチマ等のつるものの野菜を栽培し、グリーンカーテンの役割も果たす。風通しを良くし、夏の暑い日差しを遮ってくれる。野菜の肥料には家畜の尿尿が使われる。風呂は薪でたく。水は雨水を濾過する。前面道路に面するダイニングでは住人だけでなく近所の農家のヒトたちも一緒に食事を楽しむことができ、収穫した作物などを分け合う物々交換の場にも利用される。家畜が高床の下の土間を自由に行き来して、完全にヒトと隔てられることはない。このようにこの家では生きるという全ての行為は、住人たちが協力しあって分け合わなければ成立しないのだ。



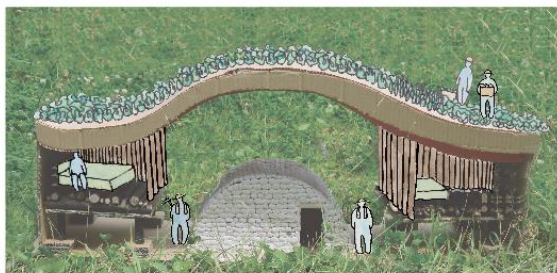
ダイニングイメージ



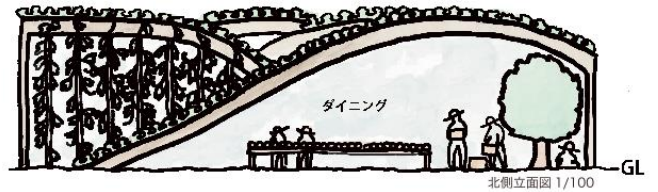
高床イメージ



全体イメージ

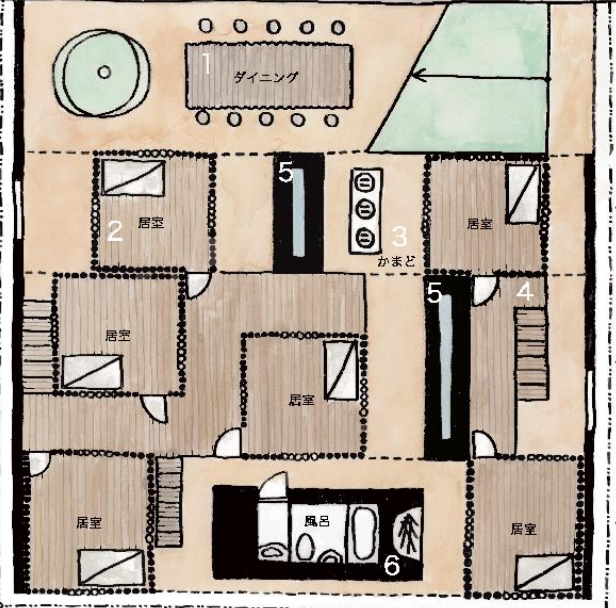


CC' 断面イメージ

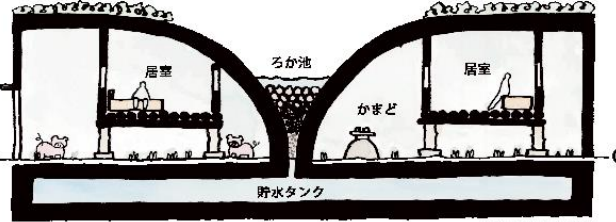


北側立面図 1/100

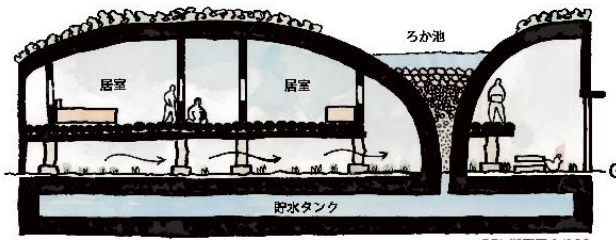
1ダイニング 近所の農家のひとたちと収穫した野菜などを分け合う	2居室 土間の地面と接することなく風が通り抜けて涼しい	3かまど 薪を使うときもガスで火を使わずに火をたかす	4丸木 近所の林で間伐した丸木を架ける	5貯水タンク 雨水はよこしてきれいな水になった水をためてヒトで分け合う	6風呂 わかすと薪がガスは使わず薪利用の薪を使用する
------------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------------	--	-------------------------------



平面図 1/100



AA' 断面図 1/100



BB' 断面図 1/100



CC' 断面図 1/100